

## 小鳥の村からの体験的な教育活動 北海道旭川市立台場小学校

### 学校 の 概 要

#### 学校規模

学級数：7学級（内特殊学級1学級）

児童数：83人

教職員数：16人

#### 体験活動の観点からみた学校環境

恵まれた自然・社会・人的環境

北海道中央部の旭川市郊外に位置し、森林、河川、丘陵、沢などの自然環境や、老人福祉施設、障害者授産施設、国道沿いの企業等、様々な教育資源にも恵まれている。

学校林（校庭横に約1.1ha）

野鳥保護、植物や昆虫の観察等の自然体験活動を日常的に行うことができる環境になっている。

#### 伝統の野鳥保護活動

- ・ 学校が事務局となり、地域ぐるみで「小鳥の村」を運営している。（42年間）
- ・ 知事指定の「愛鳥モデル校」となっている。（37年間）

#### 連絡先

〒070-8022

北海道旭川市神居町台場274番地

電話：0166-61-4405

FAX：0166-63-5840

電子メ-ル：daiba@ma.megafit.net

### 体 験 活 動 の 概 要

活動のねらい（身近な自然体験活動）

気付き、感動、共感性のある子どもの育成

思いやりや命を大切にする子どもの育成

主体的に学び、行動する子どもの育成

主な活動内容・方法（位置付け・期間等）

野鳥保護を中心とする自然体験活動として、巣箱掛け、営巣観察、給餌活動、植樹等を行っている。

野鳥保護から発展した活動として、環境汚染研究、省エネ学習、水質検査と鮭の稚魚放流、各種リサイクル活動等を行っている。

愛鳥活動を年間を通じ総合的な学習の時間で実施するとともに、各教科、道徳、特別活動との関連を図っている。

体制等の工夫

野鳥保護の活動では、地域全体で議決、執行、監査を行うなど村議会形式をとっている。

校務分掌に「学社融合・小鳥の村係」、  
「地域連携・豊かな心を育てる体験活動係」を設置している。

地域や関係機関との連携を図り、様々な専門家の協力を得ている。

活動の成果等

自然の大切さを自覚し、主体的に環境保護活動に取り組む態度が育った。

自然を思いやる心から、福祉や国際理解について学んでいこうとする意欲がはぐくまれた。

愛鳥活動を取り入れることにより、本校の総合的な学習の時間の特色が明確になった。

## 1 活動に関する学校の全体計画

### (1) 活動のねらい

- ア 身近な自然や人々に触れる体験活動によって、気付きが生まれ、感動し共感する子どもを育成する。
- イ 動植物の世話など命をはぐくむ体験や人との関わりを通して、思いやりや命を大切にする子どもを育成する。
- ウ 子ども自ら計画を立てたり、みんなで工夫し合いながら体験活動をすることで、自主性のある子どもを育成する。
- エ 身近な素材や体験活動を生かした授業を通して、積極的に環境を大切にしようとする子どもを育成する。

### (2) 全体の指導計画

- ア 活動の名称：「わくわく愛鳥大作戦」
- イ 実施学年：全学年
- ウ 活動内容

野鳥保護活動を中心とする自然体験活動  
巣箱掛け，営巣観察，給餌活動，植樹，  
植物や昆虫の観察，学校林での春探しや秋  
探し，愛鳥作品展，野鳥研究など  
野鳥保護活動から発展した活動

環境汚染研究，省エネ学習，水質検査と鮭の稚魚放流，子どもエコクラブ各種リサイクル活動，人的環境と社会的環境にもやさしい活動（老人福祉施設との日常的交流，国道での交通安全キャンペーン），栽培飼育活動など

#### エ 教育課程上の位置付け

生活科・総合的な学習の時間に位置付けるとともに，各教科，道徳，特別活動と関連付けている。

#### オ 活動場所

学校林を中心としながら，農場，動物園，博物館等で活動している。

#### カ 継続の状況等

- ・ 事前に前年度の活動を振り返り，その成果と課題を押さえ，主として低学年では野鳥や自然に親しむ活動，中学年では野鳥を世話する活動，高学年では野鳥を保護する活動を取り入れている。
- ・ 事後には，総合的な学習の時間等において，愛鳥の精神を生かし国際理解，環境，福祉などの横断的・総合的な課題を解決する学習活動へと発展させている。

## 2 活動の実際

### (1) 事前指導

野鳥保護活動の年間活動計画との関連を重視した教育課程を編成し，各教科，道徳，特別活動で横断的に指導を行っている。また，休み時間や放課後の自主的な活動の時間を通して，子どもは，憩いの場や遊びの場となっている学校林の環境整備を行っている。

### (2) 活動の展開

総合的な学習の時間第6学年「わくわく台場っ子タイム」における「わくわく愛鳥大作戦」



学年	時間数	単元名	配当時間	実施時期	領域
6	110	わくわく愛鳥大作戦	30	通年	環境
		不思議の国へ挑戦	40	6～2月	発展的な学習
		私たちにできること	30	9～11月	環境保護
		情報処理・国際交流	10	1～3月	情報・国際理解

単元名 「わくわく愛鳥大作戦」

単元の目標

- ・ 小鳥の村での野鳥観察や野鳥保護などの活動を通して、自然環境に対する興味や関心を高める。
- ・ 野鳥にやさしい環境について自分なりの課題をもち、進んで観察、調査、実験等に取り組み、課題を解決することができる。
- ・ 調べたことや解決したことをもとに、地域の自然環境を守るため自分たちでできることを考えることができる。

学習の流れ

学習計画について話し合うとともに、小鳥の村で巣箱掛けや巣箱内の清掃、野鳥観察などを行う。(5月 5時間)

ムクドリの卵から巣立つまでの様子の観察、見られる野鳥の種類や数の変化についての調査を行うとともに、野鳥にやさしい環境についての課題を確かめ、課題解決の見通しをもつ。(6～7月 7時間)

小鳥の村が野鳥にやさしい環境かを確かめるため、松の気孔の汚れから空気の汚れを調べるなど、課題解決に取り組み、解決したことをまとめる。

(8～2月 15時間)

解決したことを交流し、野鳥にやさしい環境づくりについて考える。

(2～3月 3時間)

### (3) 事後指導

学習したことを環境新聞にまとめ、エコクラブを通して全国に発信するとともに、愛鳥作品展を通して鳥の絵やはり絵、工作、レポート等を広く地域に紹介している。

特に、第6学年では「自然にやさしい係」「人や社会にやさしい係」「自分にやさしい係」を学級に設置し、植樹や福祉施設との交流などの自主的な活動を行っている。

### 3 体験活動のための体制

#### (1) 学校の体制，家庭や地域，関係団体・施設・機関との連携

##### ア 学校体制

##### (ア) 校務分掌

学社融合・小鳥の村係

「小鳥の村」村議会事務局の業務，植樹や奉仕活動など森林管理に関する業務，広報誌発行に関する業務などを行う。

地域連携・豊かな心を  
育てる体験活動係

地区市民委員会青少年係をはじめ地域の関係機関や  
体験活動講師との連絡・調整に関する業務，近隣の学  
校と市民委員会による「青少年を守る会」の行事の企  
画，推進に関する業務などを行う。

## イ 地域の体制

本地区は，渡り鳥や野鳥が生息する自然環境に恵まれているため，学校が事務局となって  
40年以上にわたり，地域ぐるみで「小鳥の村」を組織し運営している。この活動が，本校  
の自然体験学習の特色であり，各教科等の学習活動に発展する基盤となっている。

### <小鳥の村の概要>

#### 1 「小鳥の村」の目標

地域が一体となって，野鳥保護活動を行い，野鳥と人が共生できる楽園を築く。

#### 2 活動内容 ~合い言葉：小鳥も人も住みよい台場~

- (1) 野鳥の愛護と繁殖 (2) 森林などの自然保護 (3) 教育活動への応用  
(4) 青少年の健全育成 (5) 市民のための憩いの場所づくり

#### 3 巣箱設置面積と巣箱数

地区内森林：396ha，重点地区：学校林1.1ha，架設巣箱累計：約2,600個

#### 4 施設・設備

観察休憩あずまや，記念碑，小鳥用給水・給餌台，案内・説明用表示板，学校玄関の  
小鳥の声センサー，はく製，日本野鳥の会創始者・中西悟堂氏揮毫扁額など

#### 5 「小鳥の村」の組織

住民代表による村議会形式の組織が設立されている。

- (1) 議決機関：村会議長1名，副議長1名，村会議員13名(市民委員会代表)  
(2) 執行機関：村長1名，助役2名(PTA会長，校長)，収入役1名  
事務局(教頭他3名)  
(3) 監査機関：監査2名  
(4) 実施者：地区の全ての住民及び学校，福祉施設，スキ-場，ゴルフ場等の職員

## (2) 経費・資材・指導者の確保などの手立てや工夫

### ア 経費

総合的な学習の時間について，旭川市教育委員会から研  
究委託費を受けるとともに，野鳥保護「小鳥の村」活動，  
森林保護(森林愛護組合活動)，自然環境保護活動，心を育  
てる活動，花壇環境整備のための経費について，地域の住  
民の方々，民間企業，関係団体，北海道や旭川市の関係局  
課等から幅広い支援を得ている。

### イ 資材・情報提供

- (ア) 実のなる樹苗木：旭川市土木部水緑公園課から  
(イ) 野鳥巣箱材料：旭川市環境部環境保全課から  
(ウ) その他の資材：地元の各種企業及び住民から

### ウ 指導者・情報提供



博物館学芸員，動物園飼育係，植物研究者，元営林局職員，野鳥の会会員，北海道環境生活課，経済産業局省エネ対策課，北海道環境財団の職員，地元の各種技術者

#### 4 成果と課題

##### (1) 成果

ア 子どもの変容（調査方法：自己評価，調査対象：平成12年度第6学年，単位：人数）

（ア）活動のねらいに対する子どもの自己評価

「物事に気付き，感動するようになったか」

変容の具体例

	1	2	3	4	5
平成12年4月	2	13	2	0	0
平成13年8月	0	0	0	10	7

- ・ 野鳥の飛来を喜ぶ子どもが増えている。
- ・ 草花や昆虫についての気付きが見られる。
- ・ 体験学習で喜びや感動の姿が見られる。

「思いやりや命を大切にしているか」

	1	2	3	4	5
平成12年4月	0	8	9	0	0
平成13年8月	0	0	0	7	10

- ・ 死んだ野鳥への思いやりが見られる。
- ・ 高齢者や障害のある方々との交流が積極的になっている。

「自主的に行動しているか」

	1	2	3	4	5
平成12年4月	3	11	3	0	0
平成13年8月	0	0	4	5	8

- ・ 雪の中でも給餌活動をする子どもが増えている。自分で調べたことを積極的に発表する子どもが増えている。

「意欲的に環境を大切に行動しているか」

	1	2	3	4	5
平成12年4月	0	7	10	0	0
平成13年8月	0	0	0	4	13

- ・ 家族に教えて共に活動するようになってきている。
- ・ 学級での活動が全校に波及している。

（イ）体験活動後の子どもの意識（調査対象：平成12年度第6学年，単位：人数）

自己評価項目	（調査意図）	平成12年体験活動後	【複数回答あり】
なぜだろう？もっと調べたい。（興味・関心）		16	
よくわかった。（知識・理解）		16	
できるようになった。（技能）		13	
おもしろかった。楽しかった。（満足・成就感）		17	
またやりたい。私にさせて。（意欲）		17	
私も家族も今後こうしたい。（行動化・生き方）		14	

##### イ 教師の感想

- ・ 環境教育における体験活動の鍵は，「心」の育成にあると思って実践している。思い入れの心と探求心が育てば，子どもたちは生き生きと活動を展開する。
- ・ 校区内にこんなにも体験活動の素材があることがわかって驚いている。

##### ウ 子どもや保護者の声

- ・ 私たちの学校は，愛鳥活動で有名な学校です。同様な活動をしている学校とネットワークを組み，交流したい。
- ・ 学校と地域が一体となって行っている環境保護活動は，地域の活性化にも役立っており，地域の誇りです。私達にもできることがあれば言ってください。

##### エ 外部指導者や受入先の所見

- ・ 子どもがよく育っている。子どもの姿に心が洗われます。また、協力したい。
- ・ 既に総合的な学習として、単なる体験にとどまらず、行動化や生き方にまで発展している。

#### オ 活動の様子発信

取組の様子については、機会あるごとにとりまとめて広く発信することとしており、これまで多くの賞を受賞したり、表彰を受けたりして、子どもたちをはじめ関係者の励みになっている。

#### (2) 課題

ア 更に地域から協力を得やすい具体的な体験活動の提案が必要である。

イ 数多くの実践と手立てが累積されているので、児童の実態に合わせて選択し活用できるように、整理・分類・ファイル化を継続する必要がある。

#### 5 今後の取組の方向

(1) 教育課程の改善・充実のため、今までの諸活動を評価し、重点化する。

(2) 完全学校週5日制の下で地域と共に行う体験活動を更に工夫していく。

(3) 学社融合事業の推進のため、地域の指導者と教職員の協力体制づくりに努める。

(4) 子ども一人一人の体験活動を充実させるために社会教育施設との連携に努める。

#### 【本事例活用に当たっての留意点】

地域と連携した「小鳥の村」の運営や、「愛鳥モデル校」といった伝統的な取組を基盤にして、自然体験活動を構想している点が特徴である。野鳥観察や野鳥保護活動から、空気などの環境汚染や水質検査などの体験的調べ活動へ発展するとともに、その延長線上に子どもエコクラブや老人福祉施設などとの日常的交流が位置づけられている。

本校のような恵まれた環境や伝統的な活動が行われている学校は多くはないと思われるが、もう一度学校のまわりの環境を見直したり、今まで取り組んできた活動を整理したりすることは大切なことと思われる。身近な環境や取り組みと関係付けた上で、自然体験活動を工夫することが、子どもの自ら考える力の育成につながっていく。